（第２号様式）

令和５年３月 31 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立鶴見総合高等学校長

令和４年度　学校評価報告書

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月１日実施）	総合評価（３月 20 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎的・基本的な知識・技術の習得と、総合学科の教育システムを実現するための教育課程の編成を推進するとともに、組織的な授業改善に取り組む。	①新カリキュラムに基づき、新カリキュラムの必修科目・系列科目・選択科目について指導を行う。 ②多様な学びの場を提供するとともに、参加する生徒の姿勢や意欲を向上させるための指導を行う。	①単元計画の作成を通して、新カリキュラムの科目の指導内容について具体的に検討を行う。教科が主体となって作成したＩＣＴを活用した「一歩進んだ授業」を教科内にとどめず全教員で共有するとともに、よりよい授業づくりを推進する。 ②生徒の確実な単位修得につながる指導に取り組む。また、情報の提供を行っていく。	①次年度から開講される学校設定科目も含め、本校の生徒の実態を踏まえた学習内容の検討及び実践できたか。 ①１人１台端末を踏まえた教科指導を行うことができたか。 ②学校外活動での単位修得が推進できたか。	①当初の計画に沿って、今年度の単元計画の作成を行ったうえで、次年度の単元計画作成へ向け各教科で準備を進めている。 ①ワーキンググループ（WG）を立ち上げ、１人１台端末に関わる取組みを行うだけでなく、その内容を共有する体制を整えた。 ②各教科による呼びかけにより、例年と同様に検定を受ける機会を生徒に周知できた。	①新カリ完全移行に向け学校設定科目を中心とした単元計画の作成を引き続き計画的に実施する。今年度作成した単元計画に関しても次年度へ向けさらに改善を図る。 ①引き続きＷＧを中心に、取組みを実践していく。 ②現在提示している技能審査の一覧について新カリ科目との相互性の確認を行い、次年度以降の準備を行う。	学校設定科目を中心とした来年度の単元計画の作成にあたり、ＩＣＴが目的ではなく、手段として共有されるよう組織的に準備が進んでいることが評価される。 小学校段階から１人１台端末を使用した学習を始めている。高校段階での指導体制は、毎年状況が変化することを踏まえておく必要がある。	①新カリの教育課程編成における課題の解消を行い、より生徒の実状に合わせたものに変更することができた。引き続き生徒の実状に合わせて単元計画の作成をＩＣＴ活用の視点も踏まえ行っていく。また、学習評価の在り方についても検討を行いたい。 ②各教科を中心に技能審査の一覧について見直しを行った。コロナ禍において件数の減っていた技能審査以外の学校外活動の活性化を図りたい。	①今年度ＷＧの取組みを中心に深めることができた授業手法を取りいれ単元計画の作成を促す。ＷＧの活動が引き続き行われることを踏まえ、ＷＧとも連携を図り、授業改善をその手法だけでなく、学習評価でも行っていく。 ②技能審査については各教科と、学校外活動についてはグループ間の連携を図り、生徒に周知し、興味を促す。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣・規範意識の涵養、部活動の活性化など、学校生活の充実を図る。 ②関係機関と連携した教育相談体制を推進させる。	①基本的生活習慣を身に着けられるよう、様々な場面での指導を行う。 生徒会を通じ、部活動加入 PR を積極的に行い、加入を促す。また、コロナ禍に対応し、安全・安心に部活動に取り組める環境づくりに努める。 ②ＳＣ、ＳＳＷとのさらなる連携による教育相談体制作りに努める。状況に応じ、外部機関との連携に努める。 ③外国につながりのある生徒への支援を行う。	①職員が共通認識を持ち、授業、学校生活において日常的に生徒指導を行う。 部活動紹介で部活の良さを伝え仮入部期間への参加を促す工夫をし、新入生、在校生への部活動勧誘を行う。また、各部活が安全・安心に活動に取り組める環境づくりを行う。 ②教職員が研修等を通じて、教育相談についての理解を深め、生徒・保護者に支援策を的確に伝えられるようにする。 ③外国につながりのある生徒の状況を共有し、必要な支援を組織的に行う。	①生徒が自分から行動し、けじめある生活習慣を身につけられたか。 部活動加入率を上げられたか。また、各部活が安全・安心に活動に取り組める環境づくりが行えたか。 ②職員研修を行い、教育相談への理解を深め、問題や悩みを抱える生徒・保護者の解決につなげられたか。 ③外国につながりのある生徒の日本語習得と進路支援ができたか。	①頭髪・服装指導での帰宅指導者数が 34 名（２月末現在）で、例年（平均 50 名程度）に比べ減少した。 部活動紹介では動画や実演等での紹介が増え部活動の良さを伝えることができた。仮入部する生徒も増え、新入生加入率は約６割と半数以上の加入につなげることができた。 コロナ陽性者が複数出た時は活動自粛する等の対策を行った。	①次年度以降も学校全体で継続した声掛け指導を行い、生徒の自覚を高めていく。 早めに HP 等での部活動紹介を更新し入学希望者へ、アピールする。 引き続きコロナ対策を行いながら部活動を実施する。 ②人権研修として本校ＳＳＷによる教育相談に係る職員研修を 11 月に実施し、教育相談への理解を深めた。	生徒指導と外国につながりのある生徒への支援は、鶴見総合高校の強みと大切な伝統であり、宝であると思う。今年度も継続して対策を推進したことにより、実績が向上したのは素晴らしい。 学校 HP が全般的に地味で、視覚的訴求が少なく思う。部活動紹介や未来探索などの魅力的なコンテンツ・動画などを使って内外に発信すれば、入学前から保護者も含め理解が深まり、参加への意欲も高まるのではないか。 高校生のスマホやタブレット依存度が高まっている。スクリーンタイムなどの重要性を認識させる指導なども重要だと考える。 外国につながりのある生徒への支援は、他校の事例ではグループに位置付けられているところもある。生徒数も多く、ますます多様化しているので、検討してもよいのではないか。	①繰り返し細やかな指導を行うことで、生徒の意識の変化が感じられている。さらに自覚を持ち行動できるように支援していきたい。 各部活動へ HP の部活動紹介の更新をお願いしたが、更新した部活はわずかだった。 ②ＳＣ、ＳＳＷと連携した教育相談体制を築き、問題を抱える生徒への支援につなげることができた。相談件数の増加への対応が今後の課題である。 ③外国につながりのある生徒支援を担当する部署に関して検討し改善をすることができた。継続して検討していきたい。	①学校全体で統一した生徒支援を行うため、研修会を積極的に実施し、課題を把握し全職員で取り組めるようにしたい。制服の意義を生徒に考えさせるために、カジュアルデーを設ける等の検討をしている。 各部活に HP の部活動紹介のページをより魅力的になるよう更新をしてもらえるように依頼する。HP については研究広報 G に協力をお願いしたい。 ②ＳＣ、ＳＳＷに頼るだけではなく、職員一人一人が生徒支援できるような研修を実践したい。 ③外国につながりのある生徒支援について、様々な角度から広く検討していきたい。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月１日実施）	総合評価（３月 20 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①キャリアガイダンスの実施内容の更なる充実に向けた検討と生徒の主体的な進路実現への支援を推し進める。	①新学習指導要領に基づく教育課程編成と連動する形で「キャリア教育実践プログラム」の見直しを引き続き検討する。 ②生徒が自ら考え主体的に希望進路の実現に向けて取り組むような支援をする。	①「未来探索ⅠⅡⅢ」の学習内容を恒常的に見直し「キャリア教育実践プログラム」に定めるキャリア諸能力の育成を図る。 ②将来の職業や卒業後の進路を踏まえ、適切で計画的な履修指導やキャリアカウンセリングを行う。また、保護者への情報提供を適切に行い家庭と学校とが連携して生徒の支援を行えるようにする。	①「未来探索ⅠⅡⅢ」の取り組みに恒常的に改善を加えることができたか。 ②履修指導やキャリアカウンセリングが適切に計画的に行われたか。保護者への進路情報の提供が、適切な時期・内容で行われたか。	①年次ごと、生徒状況を把握しつつ社会状況を考慮しながら、未来探索の年間スケジュールを調整して、内容の充実を図った。これによりその時々に必要なキャリア形成に必要な力が身に付くような取り組みができた。 ②学務グループや年次と情報共有し、よりよい履修指導の資料と指導方針が立てられ、それをもとに生徒の指導ができた。また、保護者説明会によって、家庭への情報提供ができた。	①今後行われるキャリア行事などをとおして、希望進路の実現に向けてどのようなことをしていけばよいのか、具体的な方策を自ら考え実行していけるように向かわせることが目標である。 ②学校と生徒と家庭が情報を共有し、希望進路の実現に向けて取り組む体制を強化するにはどうしたらよいか、さらに検討する。	「未来探索」の取組も歴史を重ねてきたので、卒業した生徒のその後の進路や就職に、どう役立ったのかを検証する機会を卒業直後、３年後、５年後など定期的に設け、今後のあり方やテーマ設定にフィードバックすることも必要かと思う。 未来ある若人たちの将来の職業や進路指導は指導者としての重要な課題である。実績ある方策であっても常に見直しをする姿勢は、素晴らしい。更なる改善に期待する。 担任だけに限らず、教科担当者とも信頼関係を築くことができ、進路選択時に多くのアドバイスや助言をもらうことができた。	①未来探索ⅠからⅢの達成目標を見据えて、生徒の状態と社会情勢を把握しつつ、キャリア形成に必要な力が身につくような課題を提示し、取り組ませることができた。今後も社会の変化を見逃さず必要な情報を確認し、生徒の成長に繋がるような学ぶ機会を整えられるようにしていくことが課題である。 ②希望進路の実現につながる履修指導を、他グループや教科と連携して実施することができた。科目の内容がより適切正確に伝わるようにすることが課題である。	①未来探索を改善計画していくうえで、卒業生に対して調査することを検討したい。 ②履修指導に関して、引き続きグループ内だけでなく学務グループと教科が連携し、わかりやすい履修指導を目指していきたい。
４	地域等との協働	①地域との連携を密にし、外部の教育力を活用する。 ②ＰＴＡとの協働による教育活動を、より発展させる。	①学校行事等において、生徒が地域と交流する機会を積極的に設ける。 ②ＰＴＡとの協働により、生徒の行事参加の満足度を向上させる。	①近隣の保育園や小・中学校等と様々な活動を通じて、交流・協力・連携を行う。 ②教育的行事において、ＰＴＡと生徒との協働の機会を増やす。	①様々な機関との交流・協力を円滑、効果的に行うことができたか。 ②ＰＴＡと生徒との協働の場をどれほど用意できたか。そして、どれほどの参加を得たか。	①隣の保育園や小・中学校等との交流は未実施である。 ②ＰＴＡ運営委員会および各委員会を毎月実施するとともに、体育祭、文化発表会、課題研究発表会等学校行事でＰＴＡと協働することができた。	①コロナ禍でも行える交流・協力・連携を検討する。 ②さらに拡充が見込まれる学校行事についてＰＴＡと密接に協働し、生徒の行事参加の満足度を向上させるように体制を整備する。	人格形成上、地域との交流は大切なので、あらゆる機会をとらえて実施できるとよい。 個別支援級がどんぐり拾いで訪問した際、高校生が歓迎してくれる様子が見られた。小学校でも高校生との関りができないか模索している。 コロナ感染状況に応じた対策を取りながら、学校と保護者が連携して、子どもたちのために活動することができた。	①コロナの感染状況もあり、隣の保育園や小・中学校等との交流はもてなかった。 ②コロナの感染状況で難しい場面もあったが、学校行事や式典等への保護者の出席、ＰＴＡの参加、協働の機会を増加させることができた。	①コロナ禍で途切れていた生徒が地域と交流する機会を、感染防止対策を徹底しつつどのような形で復活できるか検討し学校行事等に設ける。 ②コロナの感染防止対策を徹底しつつ、ＰＴＡや保護者と協働する機会を増やし、生徒の学校生活をより豊かで満足度の高いものにする。
５	学校管理 学校運営	①学校運営協議会の活動を、教育活動などとリンクさせる。 ②教職員一人ひとりに事故・不祥事防止を常に意識させるとともに、教員としての資質や指導力向上のため、学び合う組織を目指す。 ③働き方改革を取り入れた業務遂行を実践する。	①学校運営協議会とこれまで以上に教育活動の内容を共有する。 ②指導力向上のため、互いに学び合う組織を目指す。事故・不祥事防止への意識をさらに高める。 ③働き方改革を推進する。	①様々な教育活動について課題意識をもって取り組む。 ②授業を相互に見学するなど、学び合う機会を作る。 事故・不祥事防止の研修を定期的に開催する。 ③各種業務の引継ぎがスムーズに行えるようマニュアル化したり、起案文書を閲覧したりできるようきちんと保管する。	①学校運営協議会からの提案も含め、業務の改善や見直しの検討ができたか。 ②研修や面談を通して、教員の指導力や意識を高めることができたか。 ③各種業務の引継ぎがスムーズに行えたか。	①コロナ禍にあり、各種教育活動の制限があったが、感染防止に努めながら、学校行事を実施することができた。 ②ＩＣＴ推進ワーキングチームを発足し、研究と検討を重ね、各教科で、ＩＣＴを活用した研究授業を実施した。 事故・不祥事防止の研修等を各グループが主体となって実施することができた。（総務Ｇ：会計処理、学務Ｇ：成績処理、入学者選抜委員会：面接研修） ③業務引継ぎがスムーズに行えるよう、起案文書の保管場所の確保をした。	①感染防止対策を行いながら、学校行事の充実に向け、十分な検討を行う。 ②ＩＣＴを活用した授業づくりについて更なる研究を行う。 事故・不祥事防止に向けた研修を計画的に実施することができた。 ③各グループの業務の引継ぎがスムーズに行えるよう年度内にマニュアル等を作成する。	働き方改革が叫ばれる中、スムーズな業務遂行ができるよう、学校長のリーダーシップのもと、組織的に学校運営が行われている。 危機管理委員会を設置するなどして、SDGs への対応が必要ではないか。	①コロナ感染の拡大防止をしつつ、体育祭、文化発表会、卒業式、修了式等の学校行事を実施することができた。今後は、以前の姿に復活させるという単純なことではなく、今の状況にあった行事のあり方を検討していく必要がある。 ②ＩＣＴ推進ワーキングチームを発足したことがよい刺激になり、ＩＣＴ活用の意識が醸成された。 事故・不祥事防止の取組は、各グループが主体的に研修を実施し、事故をゼロにするための内容の共通理解を図ることができた。	①運営協議会とも教育内容の情報共有を行い、今、社会で求められているニーズを確認しながら、企画会議で十分に検討していく。 ②ＩＣＴ推進ワーキングチームを発足したことで、ＩＣＴ活用の意識改革が図られたので、授業研究を一層進め、よりよいものにしていく。